

第3回

洞爺湖芸術館あり方検討委員会 資料

令和7年2月20日（木） 16時00分

目 次

趣旨説明 洞爺湖芸術館の役割と活性化策について

I 芸術館の役割----- 1p

II 活性化策----- 3p

1. 作品に関する活性化策
2. 施設に関する活性化策
3. 運営に関する活性化策

趣旨説明 洞爺湖芸術館の役割と活性化策について

I 芸術館の役割

洞爺湖芸術館の役割は、文化の発展と地域の振興に寄与することです。

具体的には、町民や来訪者に美術作品を鑑賞する機会を提供すること、新たな価値を発見し興味を喚起する講演会を実施すること、さらには町民が参加し体験することを重視したワークショップなどの創作活動を提供することが重要です。

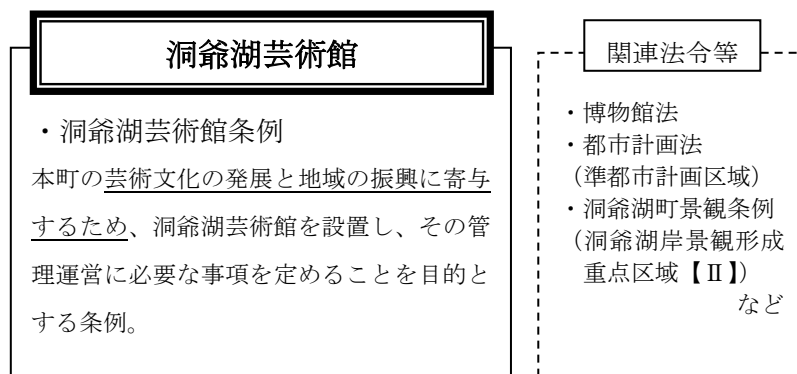
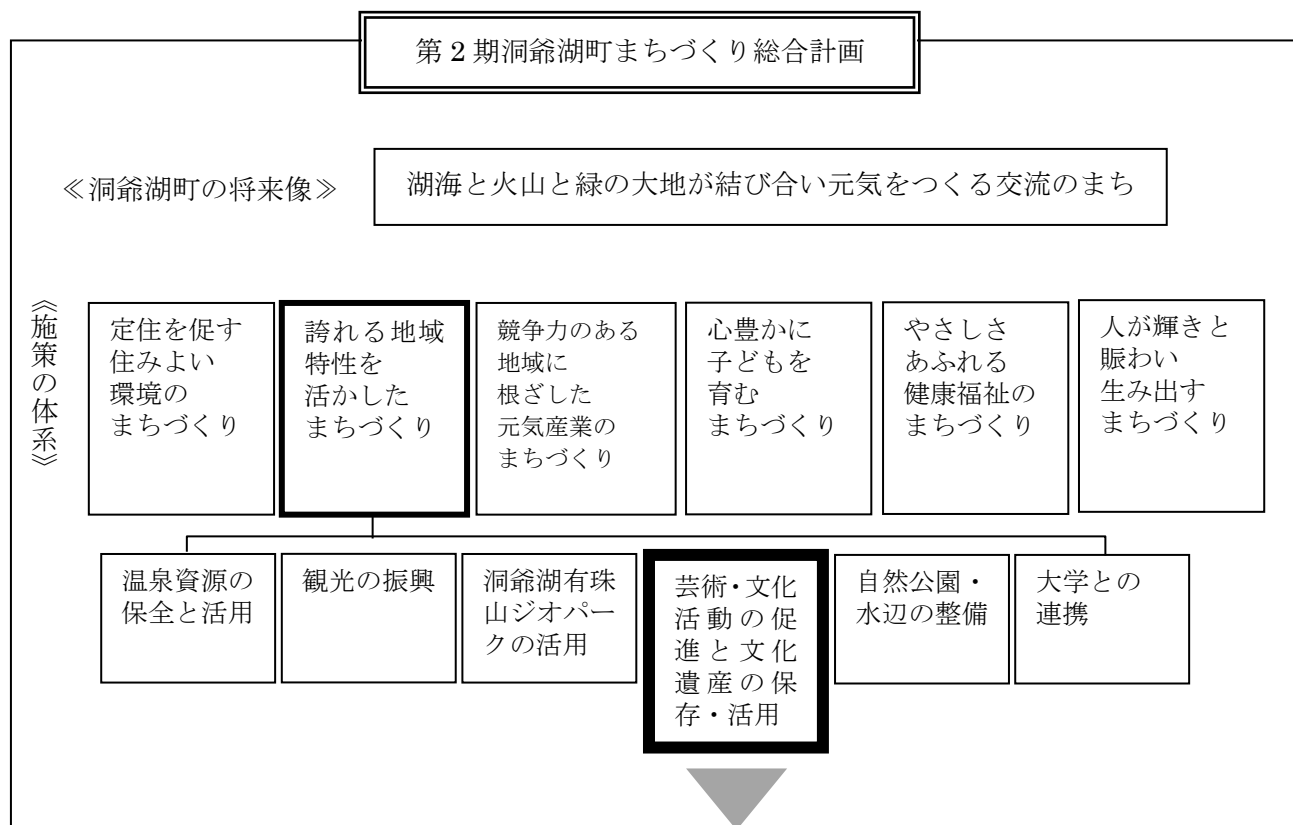
また、地域活性化に向けた取り組みにも積極的に関与していく必要があります。

今後の活性化策を検討するにあたり、洞爺湖芸術館の現状や課題及び、「美術館の原則」を踏まえ、洞爺湖芸術館の運営方針と収集方針を明確にします。その上で、新たな活動や取り組みを展開していきます。

(参考) 美術館の原則

(1) 社会への貢献	美術を通じた社会への貢献
(2) 多様性の尊重	様々な美術作品や文化の価値を尊重
(3) 設置の責任	安定した運営体制の構築
(4) 自由の尊重	表現の自由、知る自由を保障
(5) 経営の安定	目標を達成するための活動
(6) 収集・保存	コレクションの形成と保存
(7) 調査研究	作品に関する研究と保存
(8) 展示・教育	展示や教育活動を通じた社会貢献
(9) 職員の育成	専門性の向上
(10) 発信と連携	情報交換と地域社会との連携強化

《引用文献》 全国美術館会議による美術館の原理と美術館関係者の行動指針



II 活性化策

1. 作品に関する活性化策

(1) 調査・研究の強化

展覧会や教育普及及び、美術館事業の根幹となる学芸員による調査・研究を強化します。特に所蔵コレクションに関連した作品・作家に関する情報収集を積極的に行い、芸術館のコレクションの幅広い分野に対応できる体制を整え、その成果を発信します。

具体的な取り組み：

- ・ ビエンナーレ追跡調査：作家に関する情報の整理・記録の充実。
- ・ 砂澤ビッキ作品の調査強化：温湿度管理の徹底や定期的な調査・観察の実施。
- ・ 文学コレクションの調査・活用：所蔵コレクションの現状調査・整理と活用方法の検討。
- ・ 並河万里写真作品の調査・活用：フィルムを含めたコレクションの整理と活用方法の検討。

(2) コレクションの適切な管理・活用

所蔵コレクションについて、調査・研究を充実させます。また、劣化対策や管理方法を見直し、保存・展示の体制強化を図ります。さらに未公開の所蔵作品を積極的に公開し、活用を図ります。

具体的な取り組み：

- ・ 特別展の実施：所蔵コレクションに関連したテーマ設定と特別展の企画。
- ・ 未公開作品の活用：未公開作品を活用した企画の実施と新たな魅力の発信。

2. 施設に関する活性化策

(1) 老朽化施設の維持管理

コレクションには、厳密な温湿度管理や害虫・紫外線対策が求められるため、老朽化した施設における作品保護の方策について検討が必要です。また、来館者が安心して安全に利用できる環境を整えるため、展示および保存環境の改善を進める必要があります。そのため、外壁や屋根の補修、設備の更新を年次計画に基づいて実施し、建物のレトロで風情ある魅力を尊重しつつ、維持管理を進めていきます。

具体的な取り組み：

- ・ 維持管理計画の段階的实施：施設・設備や作品の維持管理に必要な補修・更新の計画的実施。
- ・ 箱庭の活用促進：展示スペースとしての利用拡大や屋外イベントでの活用。

(2) 収蔵庫の整備

収蔵庫のスペース不足を解消し、緊急時の作品保護体制を整えるため、収蔵庫整備の検討を進めます。また、入室ルールを明確化するなど、基本的な管理体制を強化します。

具体的な取り組み：

- ・ 清掃とルール策定：収蔵庫の環境整備の徹底と土足禁止などの利用ルールの明文化。

3. 運営に関する活性化策

(1) 人材育成と運営体制

受付や事務の職員など学芸員含む全職員が役割を果たせる体制を整えます。作品の保存や調査、展示活動に加え、防災対策や施設保全など幅広い知識・経験が求められるため、学芸員の専門性を深めるサポート体制の構築として、友の会をはじめとした地域の協力体制について検討します。

具体的な取り組み：

- ・ 研修への参加：学芸員や美術館職員向けの研修への参加。
- ・ 防災訓練の実施：災害時対応の強化と職員の危機管理意識のため、定期的な訓練実施。
- ・ 地域との協力体制の構築：友の会等との連携強化による支援体制の充実。

(2) 運営方針と収集方針の明確化

美術館の根幹をなす、収集、保存、調査を行うとともに、洞爺湖芸術館の方針を明確化します。

具体的な取り組み：

- ・ 方針の策定：運営の方針、収蔵作品の方向性を定めた指針の明文化。

(3) 町民ニーズの把握と企画力の向上

町民や利用者のニーズを的確に把握し、新たな企画に反映できる仕組みを構築します。また、先進的な美術館運営を参考にし、より魅力的な事業展開を目指します。

具体的な取り組み：

- ・ アンケート調査の実施：来館者や地域住民の意見収集・分析とニーズに応じた企画の検討。

(4) 美術に触れる機会の拡充

所蔵コレクションに関連した特別展・企画展を充実させ、子どもや親子が楽しめる作品鑑賞や体験プログラムなど、新たなコンセプトを取り入れた展示を実施します。また、館内作品の写真撮影について条件付き解禁を検討するなど、鑑賞の楽しみ方を広げていきます。

具体的な取り組み：

- ・ 子供向けプログラムの展開：ワークショップやイベントの子ども向け企画と参加機会の拡充。
- ・ 写真撮影許可に向けた取組み：一部エリアの写真撮影解禁に向けた条件整理。

(5) 学校・団体利用の促進

学校や団体へ芸術館利用の具体的な提案を行い、芸術館利用の理解を深める広報活動を強化します。さらに、小中学校長会を通じて、学校行事での利用を積極的に働きかけます。

具体的な取り組み：

- ・ 地元学校の利用促進：地域の子どもたちが芸術に触れられるよう、鑑賞授業や総合学習への活用、作家との体験プログラムの実施。
- ・ 団体向け鑑賞プランの作成：わかりやすい案内を作成し、団体向けに提供。

(6) 美術館間の連携

北海道立近代美術館をはじめとする近隣美術館との関係を深め、連携事業や新たな鑑賞・創作活動を推進します。また、大学や専門学校と連携し、若い人材を育成します。

具体的な取り組み：

- ・ 近隣美術館・大学・専門学校との交流企画：展覧会やイベントの連携実施と学生によるワークショップの誘致。

(7) 地域との連携

友の会と連携し、地域活性化活動への参画を強化します。

また、観光客誘致のため、とうや湖ぐるっと彫刻公園をはじめとした、洞爺湖周辺の観光資源を活用します。それに伴い、地域の観光協会や施設との、広報分野などにおける新たな連携の取り組みを検討します。

具体的な取り組み：

- ・ 友の会との連携：清掃活動や SNS を活用した広報活動など、友の会と協力した活動を展開。
- ・ とうや水の駅等との連携：地域の観光拠点であるとうや水の駅や近隣店舗との協力によるイベントの実施。
- ・ 洞爺湖温泉観光協会との連携：広報活動や「とうや湖ぐるっと彫刻公園」などの観光資源の活用を推進。

(8) 広報力の強化

独自ホームページの更新や SNS の活用を進め、情報発信を強化します。学校や旅行会社、メディア等へ広報活動の拡充を図ります。また、デジタルメディアの活用などによる、洞爺湖温泉を中心とした観光客への魅力発信にも努めます。

具体的な取り組み：

- ・ SNS の活用：町公式 SNS（LINE、Instagram、Facebook）の積極的活用による広報活動の強化。
- ・ デジタルメディアを活用した広報強化：QR コードなどを活用した効果的な広報手法の検討・実施。

現在



今後

